

2026年度鑄造カレッジ（鑄造中核人材育成）

関東地区 鑄鉄コース 募集要項

主催：一般社団法人日本鑄造協会 連携：公益社団法人日本鑄造工学会

目的

将来の工場長や経営幹部となる人材の育成を目的としています。
(鑄造技術を理論的に理解し、かつ工場管理が出来る人材の育成)

受講資格 (重要)

当講座は基礎講座ではありません。一定レベルの鑄造技術知識を保有される方を対象としております。次の経験、知識(またはそれと同等の知識)のない方は受講できません。

(1) 実務経験：「鑄造関係業務 5年以上」

但し大学の工学部・理工学部・理学部、又は高等専門学校の機械・材料系を卒業、又は大学院で鑄造を研究、以上の対象者は経験年数3年以上を可とする。

(2) 技術知識 (以下の①の研修の受講、又は②の資格の保有)

①当協会の「鑄造入門講座」、日本鑄造工学会の「技術講習会」、素形材センターの「鑄造技術研修講座」等の2日以上(講義、実習10時間以上)のシリーズ的鑄造関係の技術講座、又は、各機関・団体の開催している以下の12講座のいずれかを受講していること。

②鑄造関係の国家技能検定資格(2級、1級、特級)

講座名	主催機関・団体	日数・時間
埼玉県中小企業技術者研修 (短期研修：金属課程)	(社) 埼玉県川口中小企業技術者研修センター	座学 2H×10 日間
鑄造技術研修会	静岡県銑鉄鑄物工業組合	座学 4H×11 日間
三重県鑄造技術者育成研修	三重県工業研究所金属研究室	座学 29H (8日間) 実習 26H (5日間)
鑄造技術者初級研修	島根県鑄造関連産業振興協議会	座学 17H (4 日間)
鑄造初級講座	日本鑄造工学会北陸支部	座学 10H (2 日間) +工場見学
「アルミの鑄物講座」(1日) 「アルミ合金ダイカスト実践講座」(1日) ※2 講座両方の受講が必要	日本鑄造工学会東海支部	座学 7H (1 日間) 座学 7H (1 日間) 合計 14H (2 日間)
夏期鑄造講座	日本鑄造工学会東北支部	座学 12.5H 実習 4H (3 日間)
鑄鉄の基礎講座(1日) 鑄鉄の中級講座(1日) ※2 講座両方の受講が必要	日本鑄造工学会東海支部	座学 5.8H (1 日間) 座学 5.2H (1 日間) 合計 11H (2 日間)
鑄造初級講座	全九州銑鉄鑄物工業組合	座学 10H (6 日間) (2015 年度開催)
鑄造基礎講座	日本鑄造協会中国四国支部 (連携) 日本鑄造工学会中国四国支部	座学 30H (6 日間)
鑄物初級講座	全九州銑鉄鑄物工業組合 日本鑄造工学会九州支部	座学 47H (8 日間)
鑄物初級講座	日本鑄造工学会北海道支部	座学 12H (2 日間) 2017 年版 座学 10H (1 日間) 2020 年版

※鑄造工学会の春・秋の講演大会、技術講演会、協会の春秋大会、技術講演会、素形材センターの1日のセミナー、社内教育、コンサルタントの教育等は受講経歴となりません。

★本カレッジでは各講義後、**レポートの作成、提出が必須**となっており、ある程度のレポート作成能力、パソコンの知識が必要となります。また事務局よりの諸連絡、レポートの提出等にメールを多用しますので、ご自身、連絡のつくメールアドレスが必要となります。

申 込

2026年4月1日(水)～5月8日(金) 先着順。
 「2026年度鑄造カレッジ受講申込書」に全項目、漏れなく記入のうえ、メールに添付し、お送りください。なお、申込書はPDF化しないでお送りください。
 *郵送、FAXでのお申し込みは受付致しません。
 *事務局がメールを受付受信しましたら、開封確認メールをお送りします。
 資格審査後、受講者には受講通知を5月下旬ごろお知らせします。請求書は後日お送りします。なお、定員を超えた場合は、1社1名に制限させて頂く場合があります。

定 員 20名

受講料

(一社) 日本鑄造協会 会員 385,000円
 (本体: 350,000円・消費税10%: 35,000円)
 (公社) 日本鑄造工学会 会員 451,000円
 (本体: 410,000円・消費税10%: 41,000円)
 非会員 660,000円
 (本体: 600,000円・消費税10%: 60,000円)
 *講座中の交通費、宿泊費、昼食費等は含みません。

全 体

開講式 2026年6月5日(金)
 開催期間 2026年6月5日(金)～2027年1月30日(土)の内の17日間
 認定式 2027年5月(予定)

詳細はカリキュラムと講義内容をご覧ください。

講 義

受講期間 2026年6月5日(金)～2026年11月13日(金)の内10日間
 受講内容 30コマ×2時間=60時間(うち、13コマはWeb講義となります)
 各コース共通の科目=共通講義18コマ(共通9科目、管理5科目、地区別4科目)
 鑄鉄コース専門科目=専門講義12コマ
 会 場 機械振興会館(東京都港区芝公園3-5-8)、
 川口鑄物工業協同組合(埼玉県川口市元郷2-1-3)またはWeb講義

※Web講義はZoomによる講義となります。詳細はカリキュラム・講義内容をご覧ください。

**インター
ンシップ**

受講期間 2026年9月7日(月)～9月11日(金)の連続5日間(予定)
 内 容 造型・溶解～検査までの実習、講義、事例研究、
 会 場 ものづくり大学(埼玉県行田市前谷333)
 工場見学と事例研究発表

2027年1月29日(金)～1月30日(土)に予定

詳細はカリキュラムをご覧ください。

称号授与

所定の出席数、成績を満たした方には、当協会認定「鑄造技士(Foundry Expert)」の認定証を授与します。

特 典

授与された称号「鑄造技士(Foundry Expert)」は名刺等の印刷物に使用できます。
 「鑄造技士」に認定された方は、当協会機関誌「鑄造ジャーナル」、日本鑄造工学会機関誌「鑄造工学」にお名前と写真を掲載します。
 「鑄造技士に認定されると、日本鑄造工学会の正会員となり、技術講演会、技術交流会などの学会諸活動の参加と情報収集が可能になります。(正会員会費は、最初の3年間は日本鑄造協会が支出します。)

お問合せ

一般社団法人日本鑄造協会 鑄造カレッジ 事務局
 〒105-0011 東京都港区芝公園三丁目5番8号 機械振興会館5階501号室
 TEL: 03-3432-2991 FAX: 03-3433-7498 E-mail: college@foundry.jp

★定員に達しない場合には開催を延期することがあります。
 ★Web講義方法(Zoom)につきましては希望者に事前確認を実施します。

(重要) お申込みおける注意事項

- ・ 講義の一部が Zoom による Web 講義となります。受講の際には、カメラ付きパソコンや Wi-Fi 等の受信環境が必要となります。なお、受講が決定しましたら、希望者には開講までにカレッジ事務局と受講者の皆様とで操作方法などの事前確認を実施しますので、ご安心ください。
- ・ 社会情勢によっては、対面形式の講義を ZOOM による WEB 講義に切替える事があります。また、インターンシップや工場見学等、一部の日程を変更することがあります。
- ・ 冒頭に記載しました通り、この講座は基礎講座ではなく、レポート提出ならびに一定レベル以上のレポート提出が必須となります。提出していただいたレポートが一定のレベルに達しない状況の場合、派遣企業または推薦者の方にレポート作成のフォローしていただくことがございます。また、状況によって鑄造技士認定に至らないこともございますので、ご了承ください。

今後の鑄造カレッジ開催予定

- ・ 2027年度：関東地区、東海地区、中国四国地区・鑄鉄コース、軽合金コース
 - ・ 2028年度：関東地区、関西地区、(東海地区)・鑄鉄コース、鑄鋼コース
- ※今後の鑄造カレッジ参加計画のご参考にしてください。

各種助成金についてのご案内

今年度、鑄造カレッジ・鑄造カレッジ上級コースにて利用できる助成金は以下の通りです。

◀ 人材開発支援助成金 (旧キャリア形成促進助成金) ▶

平成 29 年 4 月 1 日からキャリア形成促進助成金は人材開発支援助成金と名前が変更となりました。同助成金のうち、鑄造カレッジおよび上級コースに係るものとしては、「特定訓練コース」と「一般訓練コース」となります。対象企業、対象者の条件等により申請できるコース、助成率、助成額が異なります。詳細は下記よりご確認の上、ご検討下さい。

厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html

※くわしくは、各都道府県労働局や最寄りのハローワーク窓口にてお問い合わせください

関東地区 鋳鉄コース 全体日程及び講義カリキュラム

★開催期間：2026年6月5日(金)～2027年1月30日(土)の17日間(講義10日、インターンシップ5日、工場見学2日)

講義受講日程：2026年6月5日(金)～11月13日(金)の10日間

開催場所：東京機械振興会館、川口鋳物工業協同組合および Web 講義、インターンシップはものづくり大学

*黄色の網掛けは鋳鉄コースの講義です。銅合金コースの方は受講しません。その他の講義は共通です。★は Web 講義日。

コマNo.	日程	時間	区分	科目・内容	講師候補
		9:10～9:50		開講式・オリエンテーション	
1	6月5日 (金)	10:00～12:00	共通1	鋳造概論	佐藤万企夫(元 日本鋳造工学会)
2		12:50～14:50	共通2	状態図の基礎	山浦秀樹(元榊未来キャスティングホールディングス)
3		15:00～17:00	管理1	生産管理	木村寿利(榊木村鋳造所)
4	6月19日 (金)	10:00～12:00	専門1	鋳鉄の用途	鈴木克美(ものづくり大学名誉教授)
5		12:50～14:50	専門3	鋳鉄の溶解と材質	古里憲明(株IJTT)
6		15:00～17:00	専門2	状態図と鋳鉄の組織・凝固	佐藤万企夫(元 日本鋳造工学会)
7	7月3日 (金)	9:45～11:45	共通3	鉄系鋳物概論(鋳鉄・鋳鋼)	鈴木克美(ものづくり大学名誉教授)
8		12:35～14:35	共通5	生型の鋳型用材料と造型法	佐藤和則(日本鋳造工学会)
9		14:45～16:45	共通9	コンピュータシミュレーション概論	木下慎一(クオリカ株)
10	7月17日 (金)	10:00～12:00	★専門7	鋳造方案とコンピュータシミュレーション	木下慎一(クオリカ株)
11		12:50～14:50	専門4	量産小物鋳鉄鋳物を中心とした鋳鉄の材質と用途	平田良介(株IJTT)
12		15:00～17:00	専門5	量産小物鋳鉄鋳物を中心とした鋳鉄の製造プロセス・鋳造法案	山浦秀樹(元榊未来キャスティングホールディングス)
13	8月5日 (水)	9:45～11:45	共通7	模型製作	宇波岳雄(榊田口型範)
14		12:35～14:35	共通8	鋳造品の品質保証と非破壊検査	桑原 勝(株クボタ教育センター)
15		14:45～16:45	共通6	生型以外の鋳型用材料と造型法	橋本邦弘(橋本技術士事務所豊橋)
16	9月4日 (金)	9:45～11:45	専門6	大物鋳鉄鋳物の製造プロセス、材質、鋳造方案、欠陥	菅野利猛(元 榊木村鋳造所)
17		12:35～14:35	専門9	鋳物砂の管理と砂試験法	川上 学(ソチヨシ産業株)
18		14:45～16:45	専門11	特殊鋳造法	吉野正規(株クボタ教育センター)
	9月7日(月)～11日(金)			インターンシップ(ものづくり大学)	詳細別途
19	9月25日 (金)	9:45～11:45	管理2	原価管理	長坂悦敬(甲南大学名誉教授)
20		12:35～14:35	管理3	品質管理	中村隆廣(元榊クボタ教育センター)
21		14:45～16:45	管理4	安全・衛生管理、環境管理、省エネルギー	松下哲也(株大田製作所)
22	10月10日 (土)	9:30～12:00	地区2	鋳造欠陥の調査	五十嵐芳夫(元 日立金属株)
23		12:50～14:50	管理5	設備管理	田村浩一 (田村労働衛生コンサルタント事務所)
24		15:00～17:00	地区1	ダイカスト概論	西 直美(ものづくり大学名誉教授)
25	10月23日 (金)	10:00～12:00	専門10	特殊鋳鉄鋳物(合金鋳鉄)の材質、用途、製造法	五十嵐芳夫(元 日立金属株)
26		12:50～14:50	専門8	中子造型法	北澤幸廣(株エフテック)
27		15:00～17:00	専門12	鋳鉄鋳物の不良対策	手井克之(伊藤鋳造鉄工株)
28	11月13日 (金)	10:00～12:00	共通4	非鉄鋳物概論(軽合金・銅合金)	吉田 誠(早稲田大学教授)
29		12:50～14:50	地区3	溶解原材料の汚染対策	山浦秀樹(元榊未来キャスティングホールディングス)
30		15:00～17:00	地区4	人事管理(人材育成、目標管理、技術伝承を含む)	中村哲男(株プロテリアル)
	予備日			2026年11月27日(金)	
2027年1月29日(金)～1月30日(土)予定				工場見学(木村鋳造所他1社)	

関東地区 鑄鉄コース インターンシップ（予定）

開催日程：2026年9月7日（月）～9月11日（金）

開催場所：ものづくり大学（埼玉県行田市前谷333番地）

※下記内容は昨年度実施したものです。

月日	AM・PM	内 容	時間	担 当
9月7日 （月） 10:00～ 18:00	AM	01)【開講】オリエンテーション・安全教育	10:00～10:30	岡根利光（ものづくり大学教授）
		02)【解説】溶解実験概要説明	10:30～11:30	鈴木克美（ものづくり大学名誉教授）
		03)【造型実習】試験片鑄型(CO2砂型)の造型	11:30～12:30	鈴木克美 岡根利光
	PM	04)【実験実習】溶解Ⅰ（FC溶解・接種・溶湯保持） 注湯、熱分析、分析試験片採取など	13:30～15:00	片桐郁昭（木村鑄造所） 永井 寛（元 埼玉県産業技術総合センター）
		05)【実験実習】溶解Ⅱ（FCD溶解・球状化处理・溶湯保持） 注湯、熱分析、分析試験片採取など	15:00～16:30	加藤祐樹（ものづくり大学） 北澤幸廣（鑄造力レヅジ幹事長）
		06)【実験実習】型ばらし、後処理、チル試験片破断等	16:30～17:00	久保田泰司（ニッサブ） ほか
		07)【解説】炉前試験・チル試験	17:00～17:30	佐藤万企夫（元 日本鑄造工学会）
		08)【実習】溶解実験データ整理	17:30～18:00	各グループ
9月8日 （火） 9:00～ 17:30	AM	09)【解説】CE値と冷却曲線と凝固	9:00～9:50	佐藤万企夫
		10)【解説】溶解原材料配合計算等	9:50～10:50	鈴木克美
		11)【解説】組織観察法	11:00～11:30	五十嵐芳夫（元 日立金属(株)）
	12)【解説】化学成分分析法の原理(発光分光、蛍光X線、	11:30～12:30		
	PM	13)【解説】鑄造品の不良解析事例	13:30～14:30	永井 寛
		14)【解説】非破壊検査の解説「PT,RT,UT,MT」	14:30～15:30	
15)【解説】非破壊検査1「RT:X線透過試験&X線CT法		15:30～16:30		
16)【実習】非破壊検査 2「PT:浸透探傷試験法」	16:30～17:30			
9月9日 （水） 9:00～ 17:00	AM	17)【実験実習】金属組織の観察① 組織観察試料の作成	9:00～10:00	五十嵐芳夫 原貴史（川口鑄物工業協同組合） 来栖直樹（伊藤鉄工(株)）、ほか
		18)【実験実習】金属組織の観察② ミクロ組織観察と画像撮影	10:00～12:00	
	PM	19)【実習・解説】非破壊検査 3「MT:磁粉探傷試験法」	13:00～14:00	岩原昌希（電子磁気工業(株)）
		20)【解説・実習】非破壊検査 4「UT:超音波球状化率判定」	14:00～15:00	鹿毛秀彦（日下レアメタル研究所）
		21)【解説・実習】非破壊検査4「UT:超音波探傷試験法」	15:00～17:00	坂代一郎((株)検査技術研究所) 永井 寛 藤島晋平(日下レアメタル研究所)
9月10日 （木） 9:00～ 17:00	AM	22)【解説・実習】硬さ試験と組織観察結果の解説	9:00～10:00	鈴木克美
	PM	23)【データ共有化・整理とGD】	10:00～12:00 13:00～17:00	各グループ
9月11日 （金） 9:00～ 16:30	AM	24)【結果のまとめ】考察、発表のまとめ	9:00～12:00	各グループ
	PM	25)【発表】結果と考察のグループ相互発表と質疑応答	13:00～15:00	全講師
		26)【解説】溶解実験結果の解説と講評	15:00～16:00	鈴木克美
		【閉講】 後片付けおよび写真撮影後解散	16:00～16:30	岡根利光

関東地区 鋳鉄コース 講義内容

共通科目

コード	テキスト科目	キーワード	内容・到達目標	講師（予定）
共通 1	鋳造概論	鋳造技術史、凝固、偏析、核生成、溶湯流動、凝固組織	鋳造技術の歴史と発展を知り、先人の知恵に学ぶ。溶湯の鋳型充てんから凝固完了までの物理的変化、種々の要因、機構を述べ、それらと鋳物性状との関連の理解と問題因子追究力の向上を図る。	佐藤万企夫 (元日本鋳造工学会)
共通 2	状態図の基礎	合金状態図、二元および多元系、平衡、凝固点、相変態	平衡状態図とは何か、熱力学との関係、相律とてこの法則などについて平易に述べる。共晶反応、凝固による相変態などについて理解を深め、状態図からの情報収集力を高める。	山浦秀樹 (元株未来キャスティングホールディングス)
共通 3	鉄系鋳物概論 (鋳鉄・鋳鋼)	鋳鉄の JIS、組織、化学成分、鋳鉄の長所短所。鋳鋼の用途別 JIS（機械的性質）、組織、化学成分、熱処理、	各種鋳鉄の JIS における機械的性質・組織・化学成分を述べ、各々の特徴（長所・短所）を理解する。鋳鋼についても用途別 JIS における機械的性質・組織・化学成分を述べ、各々の特徴（長所・短所）を理解する。	鈴木克美 (ものづくり大学名誉教授)
共通 4	非鉄鋳物概論 (軽合金・銅合金)	アルミニウム合金鋳物の用途別 JIS（機械的性質）、組織、化学成分、熱処理、長所短所。銅合金鋳物の用途別 JIS（機械的性質）、組織、化学成分、熱処理、長所短所	各種鋳アルミニウム合金鋳物の JIS における機械的性質・組織・化学成分・熱処理を述べ、各々の特徴（長所・短所）を理解する。銅合金についても用途別 JIS における機械的性質・組織・化学成分を述べ、各々の特徴（長所・短所）を理解する。	吉田 誠 (早稲田大学教授)
共通 5	生型の鋳型用材料と造型法	鋳物砂、生型砂添加剤、副資材、生型特性、砂管理、造型法、欠陥	生型造型に必要な砂（天然砂、人造砂、人工砂）、添加物等の材料特性、造型法に関する基本事項について学び、生型造型の理解を深める。鋳型砂性質と鋳物性状との関連について知識を得、砂起因欠陥の考察力を高める。	佐藤和則 (日本鋳造工学会)
共通 6	生型以外の鋳型用材料と造型法	自硬性、シェルモールド、コールドボックス、ガス硬化型、砂管理、バインダー、硬化反応	各種自硬性鋳型、シェル鋳型、ガス硬化鋳型等の鋳型の特性、バインダー・硬化剤等の材料及び硬化機構、砂試験・管理方法、造型法と鋳型特性の理解を深め、その性質が鋳物に与える影響、欠陥と対策について考察力を高める。	橋本邦弘 (橋本技術士事務所豊橋)
共通 7	模型製作	CAD、CAM、工程合理化、コンピュータ設計、自動化、RP	鋳造に用いる模型の設計・製作に当たり、CAD、CAM 導入の考え方、条件、模型製作工数の減少、寸法精度アップなど、導入のメリットと問題点について述べ理解の向上を図る。	宇波岳雄 (株田口型範)
共通 8	鋳造品の品質保証と非破壊検査	ISO、JIS、品質保証、非破壊検査方法、表面欠陥検査、内部欠陥検査、信頼性向上	製品品質に及ぼす要因は多岐にわたるが、その中で ISO、JIS の規格を満足し、品質均一化とその向上を図るポイントや非破壊検査方法とそれによる品質保証例を述べる。鋳造品の信頼性向上のための能力を高める。	桑原 勝 (株コバタ教育センター)
共通 9	コンピュータシミュレーション概論	CAD データ、CAE、湯流れ解析、流動と伝熱、凝固解析、不良対策、一発立ち上げ	客先からの CAD データを CAE に使い鋳造時における湯流れ、凝固等を事前にシミュレートし、試行錯誤で新規品を立ち上げるのではなく一発で良品を造っていくことができるようになってきた。その CAE の基礎を学ぶ。	木下慎一 (クオリカ株)

管理科目

ｺｰｽ№	講義項目	キーワード	内容・到達目標	講師（予定）
管理 1	生産管理	生産管理、工程管理、全体最適化	鋳物工場の経営管理についての基本的な考え方、生産管理および工程管理についての理論、技法を紹介し、各論および全体最適化のためのアプローチについて理解を深める。	木村寿利 (株)木村鋳造所
管理 2	原価管理	標準原価計算、原価差異分析、原価低減活動	原価の意味、原価管理の目的を紹介し、標準原価計算や原価差異分析などの原価管理の手法を説明する。さらに原価低減活動の進め方について理解を深める。	長坂悦敬 (甲南大学 名誉教授)
管理 3	品質管理	方針管理、工程管理 (PDCA)、QC7つの道具、作業標準、品質指標	経営管理上必要な品質管理の意義、PDCA、作業標準（品質）、QC7つの道具、各種品質指標の把握・管理など品質に関する基本事項について実例を交えて解説し、理解を深める。	中村隆廣 (元)株クボタ教育センター)
管理 4	安全・衛生管理、環境管理、省エネルギー	労働災害防止、労働安全衛生法、KY活動、リスクアセスメント、安全管理、公害、省エネ対策、省資源、環境経営	労働安全衛生法、同関係法令の解釈と事業者及び管理監督者の責任を理解する。また、公害防止や環境関連法規の体系、環境保全管理に関連しISO14001登録の必然性と省資源・省エネルギー対策を学ぶ。	松下哲也 (株)大田鋳造所)
管理 5	設備管理	PM、TPM、設備管理、点検表、稼働率	工場を効率よく稼働させるには、設備を点検表できちんと点検し、故障してから直すのではなく、事前にきちんと設備を管理していくことが必要である。また、故障しないような改善も重要である。	田村浩一 (田村労働衛生コンサルタント事務所)

地区別科目

ｺｰｽ№	講義項目	キーワード	内容・到達目標	講師（予定）
地区 1	ダイカスト概論	ダイカスト (Al合金、Mg合金)、金型、ダイカストマシン、スリーブ、後加工	アルミニウム合金およびマグネシウム合金のダイカストについて、材質と用途、製造プロセスの特徴および材料と組織、得られる品質・特性などについての基礎的な理解を得る。	西直美 (ものづくり大学 名誉教授)
地区 2	鋳造欠陥の調査	SEM-EDS、光学顕微鏡、試料調整方法、鋳造欠陥、材質不良、不良対策	鋳鉄鋳物は溶解、造型、鋳込み等、の製造プロセスが複雑で多岐に渡ることから鋳造不良の種類が極めて多い。この不良対策は経験者の勘にのみ頼ることが多く鋳物製品の品質向上にあたってはSEM-EDS等の科学的方法を適用するのがポイントである。SEM-EDSの測定原理と特長および鋳造欠陥の原因究明とその対策について学ぶ。	五十嵐芳夫 (元)日立金属 (株)
地区 3	溶解原材料の汚染対策	高張力鋼板、亜鉛引き鋼板、Mn、P、Zn計、自動化	鋼板が高張力化し、Mn、P等の含有率が高くなり、また、亜鉛引き鋼板も多くなりZnが高くなった。このような溶解原材料の成分の変化に対して、どうすべきかを学ぶ。	山浦秀樹 (元)株未来キャスティングホールディングス)
地区 4	人事管理 (人材育成、目標管理、技術の伝承を含む)	人事、やる気、目標管理、技術の伝承	会社は人の集まりでこれらの人々が、いかにやる気になり、会社を発展させていくかである。やる気にさせるには目標管理等は有効な手段である。また、会社の技術・技能は伝承されていかねばならない。企業の組織と人事管理のあり方、進め方について学ぶ。	中村哲男 (株)プロテリアル)

鑄鉄専門科目

ｺｰｽ№	講義項目	キーワード	内容・到達目標	講師（予定）
鑄鉄 1	鑄鉄の用途	自動車用鑄物、産業機械用鑄物、電気用鑄物、建設機械用鑄物、配管用鑄物、景観鑄物、その他	日本の鑄鉄鑄物の用途別生産量・生産額を知り、その用途別の例を挙げ、そこに使われる理由を機械的性質、物理的性質、化学的性質等から説明し、理解を深める。	鈴木克美 (ものづくり大 学名誉教授)
鑄鉄 2	状態図と鑄鉄の組織・凝固	Fe-C 系、共晶と共析、黒鉛、レデブライト、フェライト、パーライト、組織と特性	Fe-C 系状態図の見方、凝固中に生ずる種々の組織と特性について安定系と準安定系の場合について述べる。デンドライト、黒鉛、フェライト、パーライトなど組織形成と材料特性への理解を深める。	佐藤万企夫 (元日本鑄造工学会)
鑄鉄 3	鑄鉄の溶解と材質	鑄鉄溶解、キュボラ、電気炉、炉内反応、微量元素、溶湯処理、炉前試験、材質	キュボラと誘導電気炉による鑄鉄溶解の原理・方法、炉内反応、溶湯性状および溶湯処理、材質の特徴、炉前試験等について述べる。溶解効率の向上や、溶湯処理、微量元素、黒鉛核生成物質と溶湯性状の関連性について理解を深める。	古里憲明 (株IJTT)
鑄鉄 4	量産小物鑄鉄鑄物を中心とした鑄鉄の材質と用途	量産鑄鉄鑄物、薄肉鑄物、自動車鑄物、材質特性、用途	量産鑄鉄鑄物、特に、薄肉鑄物、自動車用鑄鉄の材質、機能、鑄造欠陥などについて学ぶ。用途および軽量化に対して要求される材質条件の理解を深め、製造方法との関連について考察力を高める。	平田良介 (株IJTT)
鑄鉄 5	量産小物鑄鉄鑄物を中心とした鑄鉄の製造プロセス、鑄造方案	量産小物鑄鉄鑄物、軽量化、薄肉化、チル、鑄造プロセス、鑄造方案、熱処理	自動車をはじめ種々の部品は軽いことが要求されており、肉厚 2～3mm の鑄鉄鑄物も要求されている。これ等を含め小物鑄鉄鑄物製造のプロセス、方案や溶湯処理の要点、チルや漏れ等の不良対策について学ぶ。また、熱処理（焼鈍・焼準・ADI・高周波焼入れ）についても簡単に学ぶ。	山浦秀樹 (元材料キャスティング ホールディングス)
鑄鉄 6	大物鑄鉄鑄物の製造プロセス、材質、鑄造方案、欠陥	大物鑄鉄鑄物、鑄造プロセス、材質特性、鑄造方案、欠陥、熱処理	船舶、発電用などに多用される大物鑄物について鑄造法、欠陥、特性、用途などについて述べる。熱処理、材料組織、欠陥修復技術などについて理解を深める。また、熱処理（焼鈍・焼準・歪とり焼鈍）についても簡単に学ぶ。	菅野利猛 (元榎木村鑄造所)
鑄鉄 7	鑄造方案とコンピュータシミュレーション	CAE、鑄鉄、コンピュータシミュレーション、流動と伝熱、モデル実験	CAE の鑄鉄への適用について湯流れ、凝固等を各種の例を用いて説明。シミュレーション結果の見方、プロセス改善への活かし方を理解する。	木下慎一 (クオリカ株)
鑄鉄 8	中子造型法	シェル法、コールドボックス法、自硬性法、各種中子造型法の特性、砂管理、塗型、鑄造欠陥と対策	シェル法、コールドボックス法、自硬性法、CO ₂ 等の各種中子造型法とその特性・特徴、中子砂管理、できた中子の管理、塗型などについて述べる。また、中子に関する鑄造欠陥とその対策について知識を深める。	北澤幸廣 (株エフテックス)
鑄鉄 9	鑄物砂の管理と砂試験法	混練、鑄物砂管理、鑄造欠陥、不良対策、砂再利用、鑄物砂試験法	鑄鉄鑄物用砂混練法、砂回収・管理方法、鑄物砂リサイクル、鑄物砂試験法等について説明する。造型に必要な砂特性を知り、その測定法への理解を深めるとともに必要な管理幅について学ぶ。	佐藤和則 (日本鑄造工学会)
鑄鉄 10	特殊鑄鉄鑄物（合金鑄鉄）の材質、用途、製造法	合金元素、合金鑄鉄の種類、組織、特性、製造法	普通鑄鉄以外の合金元素を含む鑄鉄（合金鑄鉄）の材質、組織、製造方法を述べる。機械的性質、耐食性、耐熱性などへの合金元素の影響と黒鉛化傾向との関連について理解を深める。	五十嵐芳夫 (元日立金属株)
鑄鉄 11	特殊鑄造法	精密鑄造法、消失模型鑄造法、V プロセス、遠心鑄造法、鑄鉄の複合化、鑄ぐるみ、鑄鉄の高機能化	生型や自硬性型による鑄造法以外に種々の特徴を有する特殊な鑄造法の例と鑄造原理、設備の特徴、生産性などについて述べる。また鑄包みなどによる鑄鉄の高機能化に関する知識を高める。	吉野正規 (株クボタ教育 センター)
鑄鉄 12	鑄鉄鑄物の不良対策	FC、FCD、鑄造欠陥、材質不良、不良対策	FC、FCD の材質不良、異物嚙不良、引け不良などの発生原因とその対策について学習し、欠陥発生要因の解析および問題解決能力の向上を図る。	手井克之 (伊藤鑄造鉄工株)

関東地区 鋳鉄コース 講義・インターンシップ会場

● 講義会場(対面講義)

○ 機械振興会館

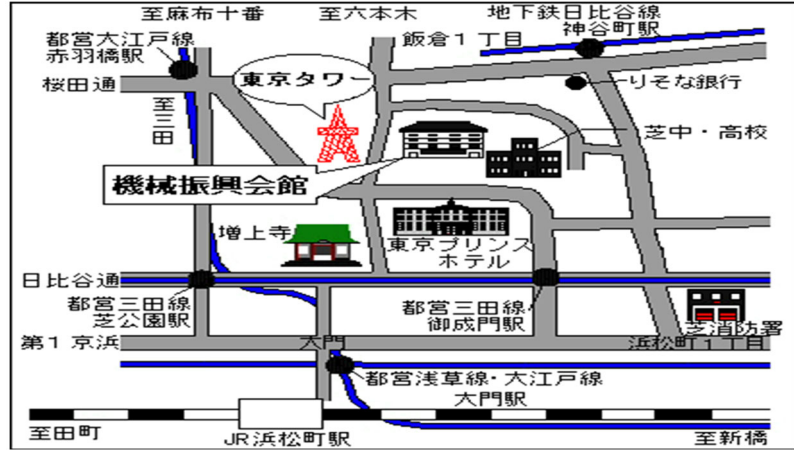
〒105-0011
東京都港区芝公園3-5-8
TEL : 03-3432-2991
FAX : 03-3433-7498

交通手段

● 地下鉄

- ・日比谷線神谷町駅1番出口より徒歩8分
- ・三田線御成門駅A1出口より徒歩8分
- ・大江戸線赤羽橋駅赤羽橋口出口より徒歩10分
- ・浅草線・大江戸線大門駅 A6出口より徒歩15分

● JR ・山手線・京浜東北線浜松町駅北口より徒歩20分

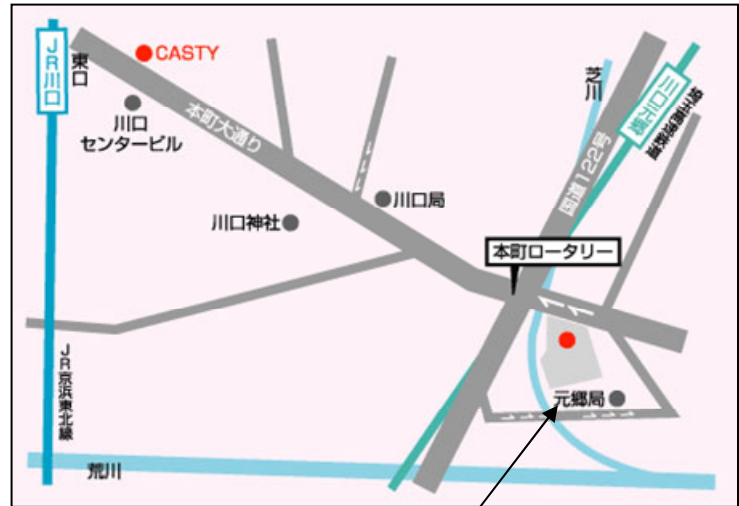


○ 川口鋳物工業協同組合

〒332-0011
埼玉県川口市元郷2-1-3
TEL : 048-224-6200
FAX : 048-224-1536

交通手段

- JR 川口駅東口から 車5分 徒歩20分
- 埼玉高速鉄道川口元郷駅から 徒歩5分



【川口鋳物工業協同組合】
(前の道路は一方通行ですので、
車の場合はご注意ください。)

●インターンシップ会場

○(学)ものづくり大学

〒361-0038

埼玉県行田市前谷333番地

TEL:048-564-3200

交通手段

JR 高崎線・吹上駅より
行田市街方面へ徒歩15分
程度

又は
朝日バス 3~5分(料金:
100円)

